

大学院 人間科学研究科 人間科学専攻 博士前期課程 入学試験問題

専門科目「心理学」

- 注意（１） すべての問題用紙・解答用紙に受験番号を明記すること。
（２） 設問のⅠ、Ⅱについて、それぞれ別の解答用紙を用いること。
（３） 解答用紙に科目名、問題番号（Ⅰ、Ⅱ）及び選択した番号を明記すること。
（４） 試験時間内の退室はできない。

Ⅰ. 次の（１）・（２）、および（３）・（４）のうちからそれぞれ問題を一つ選択し、選択した番号を明記して解答しなさい。（20点×2）

- （１）ある研究で、2つの独立変数を操作した分散分析が行われた。主効果が有意であっても、交互作用が有意である場合には、主効果の解釈に注意が必要となる理由を説明しなさい。
- （２）重回帰分析を行う前に説明変数間の相関が非常に強いことが確認された。
（ア）この場合、重回帰分析を行うと、どのような現象がみられる可能性があるのか解答しなさい。
（イ）（ア）がみられると判断されたときに、どのような対応が考えられるかを説明しなさい。
- （３）パニック症に対する新しい心理療法の有効性を検証するため、パニック症患者40名を、無作為に「新療法を行う群（新療法群）」20名と「療法なし群」20名に分け、新療法群にのみ10週間の新しい心理療法のプログラムを実施した。実施後、新療法群のパニック症状が療法なし群と比較して有意に改善していた。
（ア）「新療法群」において、治療法以外に症状改善をもたらした可能性のある要因について、具体的に説明しなさい。
（イ）この実験を行った研究者が、介入を実施する立場と効果を測定・評価する立場を兼ねている場合に生じる可能性のある現象、およびその現象を防ぐために採用される手続き上の工夫について説明しなさい。
- （４）ある研究者が、学習時の判断内容の違いが、その後の記憶成績に及ぼす影響を調べた。
参加者は大学生で、2つの条件のいずれかに割り当てられた。学習時には、同一の単語リストが1語ずつ画面に呈示され、参加者は呈示中に次の指定された判断を行った。
条件A：各単語について「その単語が表すものを実際に使った経験があるか」を判断する。
条件B：各単語について「その単語に特定の文字が含まれているか」を判断する。
参加者は、判断が終わったら自分でキーを押して次の単語に進んだ。学習終了後、自由再生課題が行われ、条件Aの方が条件Bより多くの単語を再生した。研究者は、「判断内容の違いが記憶成績の差を生んだ」と結論づけた。
（ア）この実験の学習段階の手続きに着目すると、実験の結論の妥当性を慎重に検討する必要がある。その理由を、判断の種類以外の要因がどのように結果に影響した可能性があるかという観点から説明しなさい。
（イ）（ア）で述べた点を踏まえ、学習時に行う判断の種類そのものの影響を検討するためには、実験全体の進め方をどのように工夫すべきかを説明しなさい。

Ⅱ. 次の4問の中から2問を選択し、選択した番号を明記して論述しなさい。（20点×2）

- （１）職場集団の特徴について、集団の発達の各段階に沿って、集団が安定的に機能するに至るまでに集団内で見られる事柄とその変化を、具体例を挙げながら説明しなさい。
- （２）利用可能性ヒューリスティックについて、異なる領域（例：日常生活、社会判断、リスク判断など）から具体例を3つ挙げ、それぞれの例について、その判断が生じやすい条件もあわせて説明しなさい。
- （３）脳の発達に伴うシナプス結合の形成と変化の過程について、具体例を挙げながら説明しなさい。
- （４）目標管理制度が、従業員のワークモチベーションを高め得る理由について、具体例を挙げながら説明しなさい。